

分水嶺

南西諸島での自衛隊配備が進む。沖縄県の尖閣諸島周辺で見られる中国の動きへの対応。国境の島では日を追うごとに安全保障への思いが募るといふ▼日本最西端の与那国島には昨年3月、陸上自衛隊の沿岸監視隊が置かれた。石垣島へは政府が陸自のミサイル部隊など500人から600人規模の配備受け入れを要請している▼各務原市に住む女性の次男は石垣島で開墾した農園で藍と野菜を栽培する。だが、その畑は知らぬ間に自衛隊基地の建設予定地に組み込まれていた。目にした地元紙の記事で分かった▼夫婦で力を合わせて切り開いた農地。一角には長女が生まれた際に植えた菩提樹が育つ。地元紙への寄稿で農園主の男性は「この菩提樹の木がもうすぐ…最初からなかった木のようになぎ倒されようとしています」と記す▼石垣島はサンゴ礁が広がる観光名所で人口も5万人近くを維持する。建設予定地は生活の糧を得る場だけに、基地の是非を巡って島は揺れている。自衛隊については隣の宮古島も同様だ▼石垣島出身で揖斐郡大野町で暮らす男性は、本土の人たちを郷里に案内して安保の在り方を共に考えている。「紛争に至らないようにする政治が何より大事だ」といふ男性の言葉が頭から離れない。